

3 地域の人の動き

1. 平日の地域別トリップ数

- 大阪府内の大ゾーン別に、平日の発生集中量の推移をみると、平成12年から平成22年にかけて、全ての地域で減少傾向にあることが分かります。
- なかでも大阪市においては、平成2年から10年ごとに大きく減少が続いています。

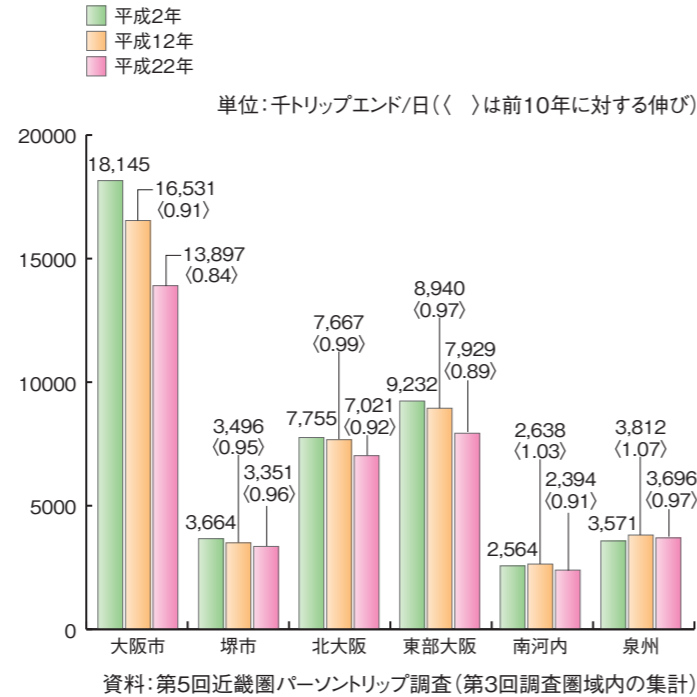


図13 平日の大ゾーン別発生集中量の推移(平成2年～平成22年)

- 大阪市内の行政区別に平日の発生集中量をみると、北区と中央区で多く、これら2区だけで市全体の発生集中量の約24%を占めていることが分かります。

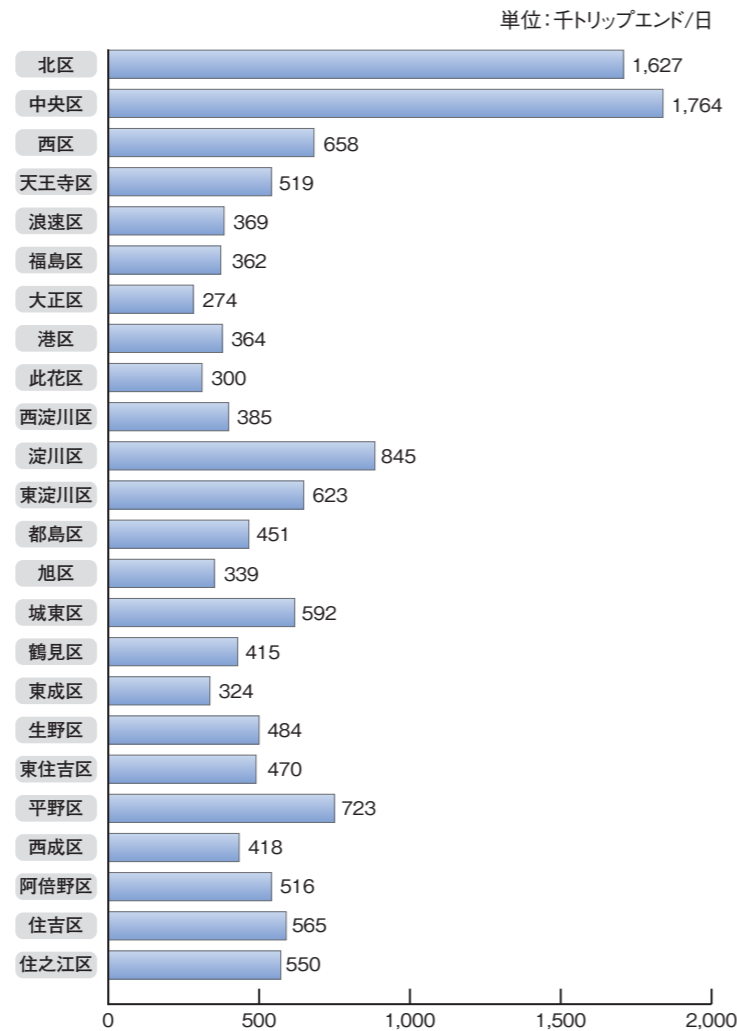


図14 平日の行政区別発生集中量(平成22年)

2. 平日の地域間流動量

- 平日の地域間流動量及びその推移をみると、大阪市関連のトリップが多いものの、全体的には減少しています。
- 特に、大阪市内々のトリップや大阪市と府内周辺地域とのトリップが大きく減少していることが分かります。
- 一方で、大阪市と京都市間のトリップでは増加がみられます。

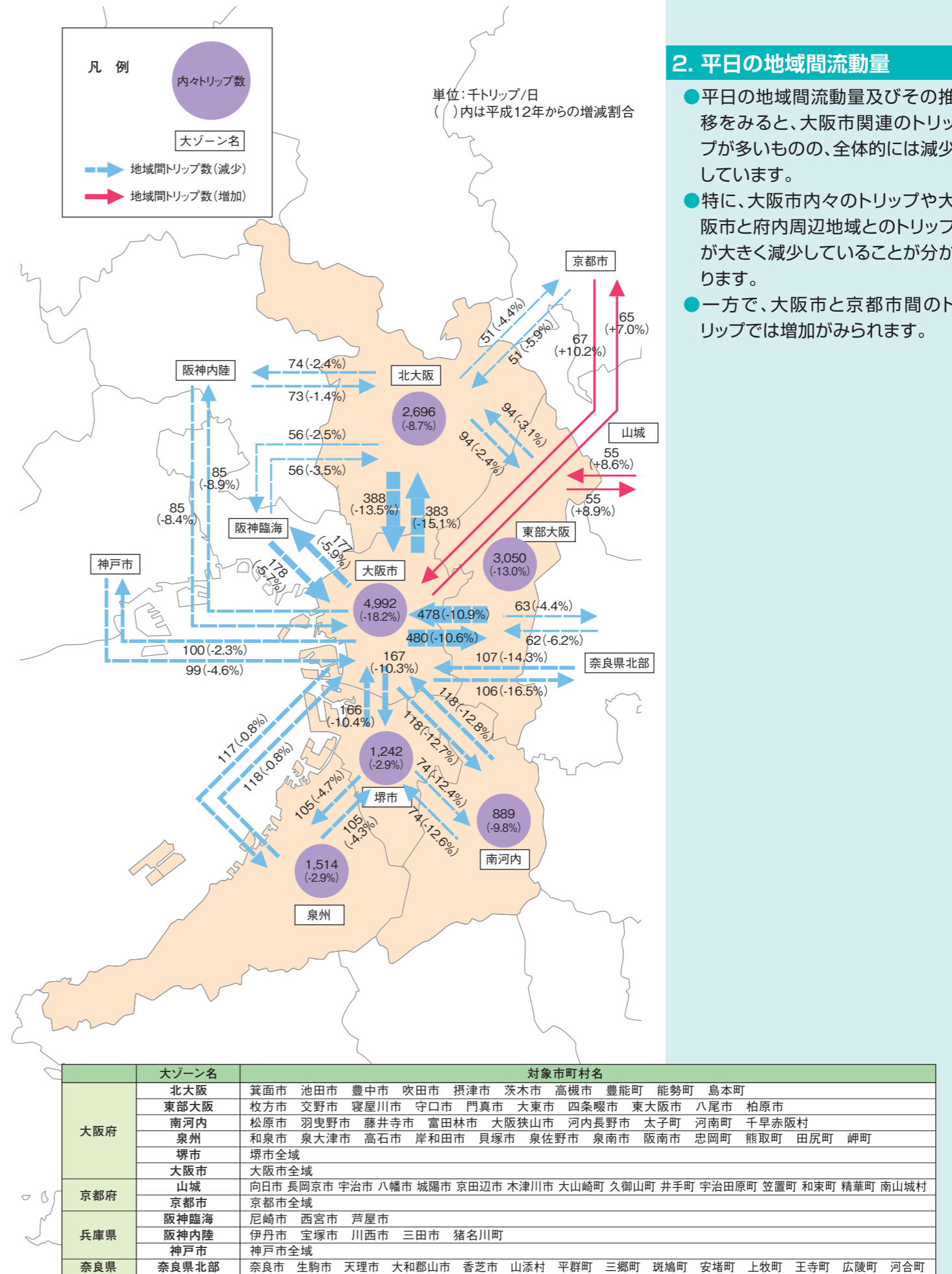


図15 平日の地域間流動量及び増減割合(平成12年～平成22年)